



川上村高原地区の地域活性化に 貢献している二団体

県外の人々にも奈良への関心を高めてもらい、奈良への来訪客を増やすことなどに取り組むNP O 法人奈良 21 世紀フォーラム（平成 12 年 4 月設立）と、株式会社地域活性局（平成 16 年 5 月発足、平成 19 年 3 月株式会社化）は、限界集落となっている奈良県吉野郡川上村^{たかはら}高原地区の活性化に共同で取り組んでいる。

川上村出身の奈良 21 世紀フォーラム理事大辻氏が、地域活性局の川上村での活躍を知り、同局代表の藤丸氏にアドバイスをを行ったことから両者の付き合いが始まった。

川上村の高原地区は、昨年で 76 世帯となり、人口は 153 人でその半分が 65 歳以上と高齢化が進んでいる。

昨年、同フォーラムは、この限界集落を何とか元気にさせようと、蕎麦作りを推奨。蕎麦は、寒暖の差が大きい同地の気候が向いており、開墾、草刈りもいらず夏植えて秋に収穫できることなど、高齢者にも負担が少ないことから蕎麦を選んだ。

蕎麦の栽培は耕作放棄地約 50㎡を使い、昨年 10 月に約 30kg の実を収穫、予想以上に美味しい蕎麦が出来た。今年は用地確保の目途もたっており、昨年の 3 倍の量を作る予定。

一方、農山村と市街地の交流・活性化を図る目的で発足した地域活性局は、平成 17 年 10 月から川上村高原地区の農家と野菜や加工品の委託販売契約を結び、月に 1 度現地から商品運び地域活性局のあるならまちで、朝市を始めた。

農薬を使わず山間地で生産された野菜は、ならまちの飲食店で好評を得たことから、今はスタッ

フが現地へ赴き、週 2 回ならまちへ配達している。今年 5 月には、現地で支店をオープン。スタッフを常駐させ、野菜などの生産状況を把握し、増産しようと考えている。

高原地区農家のお年寄りも、自ら栽培した野菜や蕎麦の売れ行きがよいことから、作り甲斐を感じられるようになり、活気づいている。

二つの団体が、これからも高原地区の蕎麦、野菜の増産を支援していくことで、同地区の更なる発展を期待したい。

（上田 祥博）



戸数の減少が続く川上村高原地区



10 月初めに蕎麦の花が咲き、11 月に収穫する蕎麦畑

これからの催し

●東大寺 俊乗堂開扉

日時：5 月 18 日～7 月 31 日 7:30～17:30

場所：東大寺 俊乗堂

しゅんじゆうぼうじゅうげんしょうにん

俊乗房重源上人は、1180 年に焼け落ちた大仏殿をはじめ東大寺の伽藍を鎌倉時代に復興した僧で、俊乗堂に坐像が祭られている。

日頃、非公開の重源上人坐像（国宝）の他、

阿弥陀如来立像（重文）、愛染明王坐像が公開される。

交通：JR・近鉄奈良駅から市内循環バス乗車。大仏殿春日大社前下車徒歩 5 分

問合せ先：東大寺

TEL：0742-22-5511